

大津百町瓦版

新年号 [No. 32]

2017年 1月

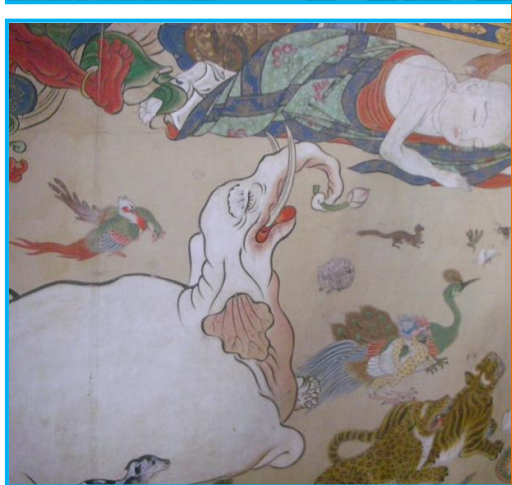
発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

Email: otsu.machiya@gmail.com



「傳光院」さんの素晴らしい涅槃図

昨年十一月、「大津の町家を考える会」が主催する『萬塾』の講座として、「旧大津内のお寺の寺宝を拝見する」ツアーを行いました。

江戸時代旧大津百町には六〇ヶ寺を超える寺院がありました。そして現在もなお四〇〇〜五〇〇年の歴史を持つお寺の多くが残っています。今回訪問したお寺は永順寺、乗念寺、傳光院、青龍寺、徳円寺の五ヶ寺。それぞれ各寺院では、予め寺宝を本堂に運んで並べて準備してもらい、内陣までも立ち入らして戴くなどしてご本尊や寺宝を拝見させて戴きました。

ここでは浄土宗のお寺『傳光院』の涅槃図を紹介させていただきます。

この涅槃図のことについて傳光院さんにお聞きしたところ、正確な製作年は不明らしいですが江戸中期のものと思われるとのこと。傷みもひどく長年同院の蔵にぐるぐると巻かれて保管してあったそうです。平成七年の時、何とか出来ないものかと思ひ、表具師さんに修復してもらったところ立派な涅槃図にふみがえったので、本堂に架けようと常設されたそうです。

本堂の天井まで届くもので縦三三〇cm横二五〇cmとすごく大きな涅槃図です。沙羅双樹の木の下で涅槃に入ってお釈迦様は金色に輝いていて、その周囲で嘆き悲しんでいる生きとし生ける五〇種以上の生類、動物、鳥昆虫がいます。傳光院さんは、お釈迦様の涅槃のことまた当時これを作成された方々や奉納された先人の方々の想いに少しでも心触れて戴ければ嬉しいので、何時でも拝観にお越し下さいと仰っていました。

「瓦版・編集担当」

町家を残し誇りにしたい

大津市中央1丁目「おで湖」(中野家)



〔 中野家住宅と飲食店「おで湖」 〕



町家は歴史的文化遺産です

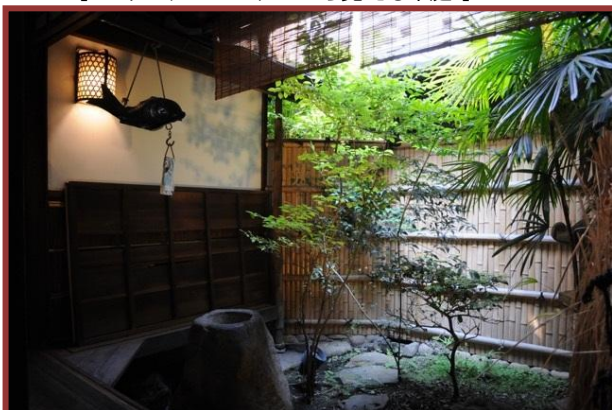
町家居酒屋「おで湖」(当初は「でんや」と隣の中野家住宅はどちらも中野さんの所有で、二軒とも国指定登録有形文化財になっています。中野家住宅は明治5年(1872)に建てられ、明治15年(1882)から戦前まで米問屋「中庄」を営んでこられました。

丸形の玄関灯の下にある枡形をした表札が当時を物語っています。昭和9年(1934)に総二階建になりました。隣の「おで湖」は明治43年(1910)に、「中庄」の番頭の住居として建てられたものです。

中野さんにお伺いしたところ、お父さんが亡くなられた後、当初は駐車場にでもするかと思っていたところ、飲食店舗として借りたいとの話が出てきたそうです。

もともと建物の意匠は気に入っていたので、内外の意匠を壊さないことを条件にお貸ししたとのことでした。内部の意匠を残しながらうまく手が加えられており、趣の異なるいろいろなお部屋で食事することが出来ます。お値段もリーズナブルなうえ居心地も良いことから、リピーターも多いとか。美味しい食事に満足できる、本当の町家居酒屋と評判です。

〔 カウンターコーナーから見える中庭 〕



〔「おで湖」二階の意匠を凝らした窓と中野家の枡形表札〕



〔 二階の座敷部分 〕



〔 二階の吹き抜けから一階を見る 〕

『萬塾』前・後期6講座修了

秋の後期講座では400年を経るお寺の寺宝を知る講座を計画しました。この三回の講座には50名近くの方が参加され、三井寺の寺宝の講話や五ヶ寺の寺宝を巡るツアー、最終回の終活セミナーといずれも大好評で終了しました。

三井寺は国宝と重要文化財の宝庫

第一回 11月5日(土) 午後2:00

第一回目は、国宝や重要文化財に指定されている建造物、書画、彫刻を多く抱えている三井寺のお宝を知る講座で、三井寺さんから福家執事長に来て頂き、パワーポイントによる映像を観ながら、お宝はもとより熊野詣でや大峰修験道も三井寺の僧侶によって行われたことなど三井寺の全容を知ることが出来ました。



〔写真は葛城修験道の友ヶ島での行の風景〕

大津のお寺の貴重なお宝拝見!

第二回 11月27日(日) 午後1:00より

前期講座で学んだ、江戸時代の「大津百町」には60ヶ寺を数える各宗派の寺院があったことから、この講座では400年を超えいまでも残る寺院の5ヶ寺を巡り貴重なお宝を拝見させて頂きました。

当日はあいにくの雨で足元が悪く大変でしたが、①永順寺(浄土真宗) ②乗念寺(浄土宗) ③傳光院(浄土宗) ④青龍寺(曹洞宗) ⑤徳円寺(浄土真宗)を巡回訪問しました。各寺院ではこの日のために貴重な諸物を予め用意して下さいました貴重なものを見せて頂きました。



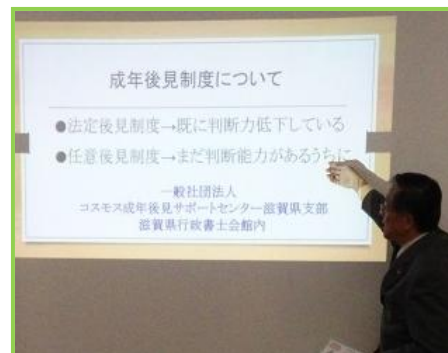
〔青龍寺の襖絵、柴田晩葉の四季農耕絵図大正期の尾花川辺りを描いたもので4襖で一季16襖ある見事な絵図〕

第三回 12月 4日(日) 午後1:00より

今年度最終回の講座は、最近よく耳にする「終活」セミナーでした。「終活」についてそれぞれの分野の専門家である人達からお話しを聞きました。

- ① 終活の考え方 永順寺住職の石川教夫氏 ② 安全に暮す為の整理 整楽堂の星田千津子氏 ③ 終活の実務 特定行政書士・社会保険労務士の笠正人氏 ④ 葬儀の実際

(株) セレマの伊藤友享氏らそれぞれの分野での充実したお話に聞き入りました。



〔成年後見制度について解説される笠正人氏〕

講座の最後は、(株) セレマから運んでいただいたピンクの花柄が刺繍された上品なお棺への入館体験をさせて頂きました。最初は渋っていた参加者も次々と入棺を体験「意外と狭い、大きい人だとどうなるの?」等々言っておられました。



〔入館体験する講座参加者〕

天満天神の会による二度目の『まちなか寄席』

昨年に引続き今年も天満天神「繁盛亭」の落語家入門講座を修了した仲間が作る、「素人寄席・天満天神の会」の方にお越し頂き『まちなか寄席』を11月26日大津百町館で実施しました。今年は天神亭・蝶九さん「鉄砲勇助」、天神亭・酔千さん「替り目」、町家の会員でもある天満屋・真念氏「天狗裁き」のお三方の落語を楽しませていただきました。



大津の町家(小川家)で宿泊体験しました。

龍谷大学エンパワチーム「たてものがたり」

こんにちは。今回は私たち「たてものがたり」が龍谷大学社会学部大津エンパワねっとの授業の取り組みで行った町家を利用した町家の暮らし体験についての報告をさせていただきます。

私たちは今年4月よりおよそ一年間大津の町家の魅力を知り広めていくことをテーマに学習活動に取り組んできました。前期(4月～8月)までの調査学習を経たなかで、私たちは町家の魅力を内側から知ってもらうために今回の宿泊体験企画に取り組みました。



〔 宿泊体験した小川家の台所 〕

11月の末に龍谷大学生、院生を対象として国登録有形文化財となっている小川邸で行うことになりました。

企画は夕食づくりから始まり、元栄養学教諭の小川さん夫妻の指導のもと、大豆やゴボウなど普段は取り入れない具材を盛り込んだ栄養満点のカレーと一緒に



〔 大豆・ゴボウ入りのカレー 〕

参加者は定員(10名)一杯の盛況で、みんなで作った

料理講習していただき銭湯にも行くなど、大津で学ぶ学生に身近に町家の魅力に触れてもらう生活体験をすることでした。

カレーの味はもちろん最高で、参加者も満足したという評価をしてきていました。また、その他にも企画としては私たちが行ってきた学習をもとに少し難易度の高いクイズをチーム戦で行いました。難しいだけに珍回答が目立って出題者側のこちらはもちろん参加してくれた学生も大いに盛り上がりました。そして今回のメインである大津の町家の魅力を知る取り組みとして小川正さんにたてものの歴史や特徴について話していただき理解を深めることが出来ました。その後町中の銭湯“神楽湯”にみんなで行き夜遅くまで交流を深めました。



〔 小川さんから町家の特徴・歴史を聞く 〕

町家の特徴である風通しの良さからくる夜の冷え込みや現代のテレビなどの家電、畳からなる日本住居の独特の空間を実際に知ってもらうこともこの宿泊企画を通してできました。このように町家の魅力がもっと多くの人に様々な形で伝わってくれるように今後も私たちのできる範囲で取り組んでいきたいと考えています。

また、今回の私たちの企画の詳細や写真などの情報は2017年1月29日にエンパワねっとの報告会にて発表予定ですので気軽にいらしてください。よろしくお願いします。
〔 龍谷大学 木村 航 〕

「大津の町家を考える会」は今年20周年

また、考える会が発行している「大津百町おもしろ発見地図」は、江戸時代の百町と現在百町の比較ができ大津のまち歩きのパイプルのように皆さんに利用され再版を重ねています。

20周年を迎える考える会では時代の変遷を経たいま、「仮称新大津百町物語」の発行を検討しています。

現在、絶版となった「大津百町物語」はネットで販売価格の四倍近くの値段で取引されているようです。

国で注目されはじめたまちづくりの教則本のようになりました。

本は評判を呼び県内はもとより県外でもよく読まれ、全

心に会活動もされていた故青山

さんが取材等して日の目をみま

した。本は評判を呼び県内はも

とより県外でもよく読まれ、全

国で注目されはじめたまちづく

りの教則本のようになりました。

現在、絶版となった「大津百

町物語」はネットで販売価格の

四倍近くの値段で取引されてい

るようです。

20周年を迎える考える会では

時代の変遷を経たいま、「仮

称新大津百町物語」の発行を

検討しています。

また、考える会が発行している

「大津百町おもしろ発見地図」

は、江戸時代の百町と現在百町

の比較ができ大津のまち歩き

のパイプルのように皆さんに利

「大津百町物語」第三弾を

今年「大津の町家を考える会」の

発足(1997年)から20年となります。

発足は、宿場町の面影を残す旧大津

中心部の町並保存や活性化を考

えようとの主旨でその年の七月

京町通りの町家に新装オープン

したばかりの料理屋「魚忠」で

発起人会を開催したのです。

それから間もない1999年

考える会は無謀にも一冊の本を

出版しました。それが「大津百

町物語」です。この本は当時熱

心に会活動もされていた故青山

さんが取材等して日の目をみま

した。本は評判を呼び県内はも

とより県外でもよく読まれ、全

国で注目されはじめたまちづく

りの教則本のようになりました。

現在、絶版となった「大津百

町物語」はネットで販売価格の

四倍近くの値段で取引されてい

るようです。

20周年を迎える考える会では

時代の変遷を経たいま、「仮

称新大津百町物語」の発行を

検討しています。

また、考える会が発行している

「大津百町おもしろ発見地図」

は、江戸時代の百町と現在百町

の比較ができ大津のまち歩き

のパイプルのように皆さんに利



2016.7 縁心寺

浄土宗寺院、縁心寺。膳所高校の東隣にある。前進寺院を初代膳所城主戸田一西（とだかずあき）が創建。本多康俊が入封したときに、前の西尾藩（愛知県）から縁心寺をここに移設して開かれた。以来、写真にあるように膳所藩本多家の菩提寺として、歴代の藩主を供養している。

この縁心寺、通称を「瓦寺」と呼ばれていたらしいが、創建当時この膳所の地には瓦葺の建造物は1軒もなく、この寺の瓦屋根が目立っていたからという。どんだけ田舎やねん！ と思ったが、いまでも滋賀県はド田舎やないかと言われると返す言葉はない。屋根の軒丸瓦には「この紋所が目にはいらぬか！」とばかりに、本多立葵の御紋が並んでいる。

在校当時、校舎の東側のことはまるで覚えていない、というか行った記憶もない。高校生のころから「歴史好き」ではあったが、この周辺の珠玉のごとく散在した名所旧跡はまるで眼中になかったのだ。



2016.6 木の岡古墳群

木の岡古墳群。1年ほど前にここの茶臼山古墳（同名だが膳所秋葉の古墳とは別）だけ見に行ったが、時間がなくてほかの古墳を見てなかったのだ。

ここは茶臼山だけでなく、古墳群全体が陵墓参考地

に指定された、宮内庁管轄の古墳なんだね。最初の写真に上げたのは「本塚古墳」と呼ばれてるらしいが、看板を読むと大友皇子生母の伊賀采女宅子媛の墓との伝承があるという。考古学的には、大津京時代前後の人物が、前方後円墳や帆立貝式古墳というのはあり得ない話で、宮内庁書陵部がいつまでも墓守をしているのはおかしい話だ。

古墳以外はご立派な家の立ち並ぶ住宅街。オッサン一人がうろうろしてたら、十分不審者だなと思いがら歩いていた。



2016.6 石坐神社

6月10日は「時の記念日」。これは近江朝廷で、天智天皇10年（671年）に漏刻（水時計）を作って、時報を始めた日にちなんでいる。この日に近江神宮では「漏刻祭」が行われるのはよく知られるが、大津西ノ庄にある石坐神社でも、漏刻祭が執り行われているのはあまり知られていない。

石坐神社は彦坐王命（第9代開化天皇皇子）を中心に、天智天皇、弘文天皇（大友皇子）、伊賀采女宅子（弘文生母）の近江朝三神を祀っている。社伝には奈良時代に三神を祀ったとし、延喜式（927年）の記載神社（式内社）でもあり、天智天皇の神社の本家本元はこちらといえる。彦坐王含む4神の木造坐像は、国の重要文化財に指定されている。

社伝には、近江三神の合祀に法伝寺の寺僧がかかわっており、室町時代後期まで近隣の法伝寺が社務を兼任していたようだ。法伝寺の住職家（大友家）は大友皇子の子孫を名乗っており、実質的には神仏習合で一体的に祭祀が行われていたのだろう。

*ふりがな入れるの忘れてた。「いよいよじんじゃ」って読みます。





2016.11 三井寺・財林坊

三井寺千団子社の横の「財林坊」。この表門と門番所(右)が大津市の指定文化財となっている(千団子社そのものや、財林坊本地堂などの堂舎も県指定)。現在は三井寺から独立しているので、だれでも無料で参拝できる。鬼子母神が祀られているので、境内にはザクロの木が植えられていたりする。

先に松本瓦の見学に百町館に行ったことを書いたが、現在も屋根瓦の主流である「棧瓦」は、17世紀後半にこの大津で発明されたものだそう。そこで瓦の「棧葺き」と「本葺き」の違いについて、にわかで勉強。棧葺きは棧瓦を〜の形に重ねる。ほとんどの日本家屋の屋根がこれだ。本葺きは丸瓦と平瓦を交互に〇—〇の形に重ねる、古い寺院建築に多い形だ。この写真も左(表門)が本葺き、右(門番所)が棧葺きというわけだ。



2016.8 長蓮寺(蓮如の小径)

皇子が丘の長蓮寺。今度は三井寺駅から電車で皇子山駅へ。県道沿いに近江神宮方向へ歩くと蓮如旧跡の石碑があって、そこから山方向に歩くとこの長蓮寺(大谷派)がある。

もともとは三井寺の山内支院だったもので、三井寺の臣の林長房が蓮如に帰依したことから、当地に移し浄土真宗の寺院となったものだそう。蓮如上人の直筆と伝わる十字名号と六字名号があり、「火除けの名号」と呼ばれている。

この寺からさらに山側の皇子が丘公園方面に行くと、

梶田さんというちょっと広い民家がある。ここの敷地内には「蓮如池」と呼ばれる清水が湧き出ている。またその周辺の畑地が「蓮如畑」と言われている。詳細はわからないが、この付近が蓮如生母の出身地の故ではないかという、私的研究もある(「近江の蓮如上人(滋賀教区教務所発行)」より)。



2016.8 真西町・地藏菩薩

地藏菩薩の縁日は毎月24日。世間は地藏盆の季節(関西では)。昔は24日を前後して開かれていたが、現在は世話役の事情で土日に開催されているのが多い。自治会の集会所や、小堂の周りにテントを張って、子どもたちを集めるが、我が街大津にはこうした集会所にとんでもない文化財が、未指定のまま鎮座ましますのである。

ここは大津赤十字病院駐車場の裏にある真西町(しんにしちょう)集会所。にぎやかに飾られるこの地藏菩薩および二童子像は、14世紀後半南北朝時代の「院派仏師」の作とみられる木像。場所的に三井寺別所あたりから伝わったものと推定されている。3年ほど前まで同町で護持されていたが、現在では大津市歴史博物館に預託保存されていて、地藏盆の間だけお帰りになっていた。歴博で展示されていた時は撮影禁止だったので、ここで心おきなく撮らせてもらった。

町内の憩いの場に、見知らぬ人間の突然の訪問にもかかわらず、あたたかくお参りさせていただけたので、地藏歎偈を読誦して10円ほどお賽銭しておいた(ケチな)。なのに帰り際によく冷えたビール缶をどうぞと差し出され私が恐縮、さすがにそれは丁重にお断りして帰った。

編集後記

「山内博貴が巡る大津の文化財」まだまだあるのですが、シリーズIVの今回ので終了させていただきます。前秋季号No. 31号P2の「町家を残し誇りにしたい」に掲載した石場・松島家住宅解体には多くの方々から感想がありました。この「町家を残し誇りにしたい」のコーナーは取材を続け継続したいと思っていますが、どうなりますか？

[K. A]